

発 言 通 告 書

発言者氏名	藤野英明
発言の会議	令和2年 9月16日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

- 1 「ベイビーロスアウェアネスウィーク～亡くなった赤ちゃんと御家族に想いを寄せる1週間～」を本市が公的な啓発週間と位置づけて積極的に周知することで、流産・死産・中絶・新生児死亡等によって赤ちゃんを亡くした御遺族の存在とグリーフケアや支援の必要性を広く世間に啓発し、亡くした赤ちゃんについて他者に語る事ができるきっかけとする取組の必要性について

- 2 新型コロナウイルス感染症パンデミックの今こそ自殺対策を強化する必要性について
 - (1) コロナ禍によって今後自殺が急増するという強い危機感を市長は共有していただけるか。また、自殺対策を強化する必要性があるとお考えか。
 - (2) 市民の自殺リスクが高まっていると言われる非常事態の今こそ、本市が取るべき自殺対策を徹底的に議論するために改めて自殺対策推進協議会を招集すべきではないか。
 - (3) もともとハイリスクな時期であるために設定された9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間について、感染症パンデミック下で今後どのように取り組んでいくのか。

- (4) これまで経験したことのない強く長引く鬱気分や不安を感じたならば、我慢せずに身近な信頼できる人や保健所やメンタルクリニックなど精神保健の専門家に相談してほしい、というメッセージを本市はホームページやSNS、町内会・自治会の掲示板や回覧板などあらゆる媒体を通じて繰り返し発信していくべきではないか。
- (5) 自殺予防の貴重な人材であるゲートキーパー登録をいただいている皆さんに協力を求めるべきではないか。例えば自殺予防週間をきっかけに、ゲートキーパーの基本である「TALKの原則（Tell、Ask、Listen、Keep safe、言葉に出して心配していることを伝える、「死にたい」という気持ちについて率直に尋ねる、絶望的な気持ちを傾聴する、専門家につなぐ）」を特に意識して周囲の方々と接していただきたい、と改めて呼びかけるべきではないか。
- (6) 本市が実践してきた様々な取組からオンラインで代替できる取組を洗い出して、できることから速やかに実行すべきではないか。

3 新型コロナウイルス感染症の感染者情報の公表の在り方が、性的マイノリティーとされる方々の性的指向・性自認のアウティングとなるため、当事者に強い不安感を与え、受診行動にも悪影響を与えている現状に早急に対応する必要性について

- (1) 本市はこれまで感染者情報として性別の公表を続けてきたが、性別の公表がアウティングにつながることをきちんと議論した上で、公表を続けてきたのか。もしそうならば、性別を公表することと決めた理由は何か。
- (2) 個人情報の保護に留意することを定めた感染症法からも、アウティングを禁止した横須賀市男女共同参画及び多様な性を尊重する社会実現のための条例からも、今後の感染者情報における性別の公表はあくまでも本人同意に基づくものとするべきではないか。また、やむを得ず公表する場合でも、市ホームページやSNS、報道発表においては、あくまでも本人の思いに添った内容で公表すべきではないか。

4 10月に実施される国勢調査において本市は決して調査票を修正することはあり得ないこと、同性パートナーの方々にあるのままで回答してほしいことを市長が明言する必要性について

- (1) 国とは異なり、本市では同性パートナーの方々が「世帯主または代表者」「世帯主の配偶者」と記入した場合に、市の担当課も調査員も「配偶者」を「他の親族」に修正することは決してあり得ない、と明言していただけないか。
- (2) 同性パートナーの方々に対して、本市の国勢調査の調査票には御本人の認識のままにぜひ回答していただきたい、と明言していただけないか。